

小学校教育課程の課題 ——生活科教育の学習内容——

福田 啓子

(平成9年10月2日受理)

The Subject System of Elementary Curriculum —— A Course of Study in Life Environment Studise ——

Keiko FUKUDA

(Received on October 2, 1997)

I. はじめに

生活科教育は、低学年のみならず、小学校教育全体の充実をはかるといふ目的をもち、今日の教育課程の課題として重要な位置を占めている。

学習指導要領(総則第1の1)では、教育課程編成の一般方針を「学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的、基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実につとめなければならない¹⁾」と示されている。そして、この教育を実現するための実践化の考えとして「新しい学力観」「子どものよさを生かす」教育が提唱されたのは記憶に新しい。

各小学校においても、新教育に基づいた学習指導を展開していくことが求められ、特に生活科は、従来の学習や他の教科とは異なる特色をもち、その指導は学校教育の変革につながるべき大きな期待が寄せられている。

生活科の成立に至るまでの背景や経緯、目的や目標等については、主として幼稚園教育の関連から既に述べたところであるが²⁾、今回は、生活科の学習指導の基本的視点について把握するとともに、学習内容に関する児童の意識を調査し、今後の生活科指導の示唆を得たい。

II. 学習指導の基本的視点

教育課程改善に伴い、各小学校においては、学校(地域)や子供の実態を踏まえ、指導計画や授業の改善を図り、新教育を展開していくことが課せられている。「小

学校教育課程一般編指導資料(平成5年)³⁾によれば、学習指導の構想と展開の視点として、以下の項目が揚げられている。

1. 指導目標の設定

- 学習活動を、子供一人一人のよさや可能性を高め豊かにし、その自己実現を目指す活動としてとらえ、指導目標を設定する。
- 子供たちが新しい学力観に立つ学力の中核となる資質や能力である「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現(又は技能)」及び「知識・理解」を身に付けることを重視して、指導目標を設定する。
- 子供一人一人が学習活動のねらいを自分のものとして理解し、自分の学習の目標を適切に設定できるようにするとともに、それに沿って学習活動が成り立つように支援することを重視する。

2. 学習課程の工夫

- 各教科等の学習指導においては、子供たちの内発的な学習意欲を喚起しその思いや願いなどを生かした主体的な学習活動ができる場や機会をできるだけ多く設定する。
- 各教科等の学習指導においては、子供たちが自ら考え、主体的に判断したり、表現したりすることを重視した問題解決的な学習活動や体験的な学習活動を積極的に取り入れる。その際、できるだけ子供たちが自分の課題を見付け、それを追求して解決する学習活動を重視する。
- 指導計画の作成に当たっては、子供たちが問題意識や

思考などを発展させていくことができるように、各教科等間の関連を図る。

○子供たちの興味・関心などを積極的に生かす観点に立って、学習活動の複数の展開を考えるなど、弾力的な指導計画を作成する。

○授業の流れについても、導入、展開、まとめという形式に必ずしも固辞する必要はなく、子供たちの学習活動の展開の状況に応じ、その過程や方法などを修正したり転換したりするよう配慮する。

3. 教材の工夫

○教材については、子供たちが人間、自然、社会、文化などのよさにかかわりながら、自分のよさや可能性を生かし高めたり、心を豊かにしたりするものであるととらえ、教材を吟味して精選したり、開発したりする。

○子供たちが思いを寄せて積極的にかかわっていくことができる教材を選択する。

○子供たちが自ら考え、主体的に判断したり、表現したりする学習活動ができる豊かな教材を選択する。

○子供たちが基礎・基本を身に付けることができるようにするために、複数の教材を用意するなど子供たちの多様な実態に応じた教材を選択するよう配慮する。その場合、教科書は、教材の特性や子供たちの実態に応じて活用するようにする。

○子供たちの生活を基盤にした学習活動を重視する観点から、地域社会の自然や社会などの素材を教材化する。

4. 教師や他の子供などのよさを生かす工夫

○学習指導をはじめ、学校生活全体にわたり、教師のよさを生かす工夫する。

○学級における他の子供、異年齢の子供や他の学校の子供のよさとかかわりを重視する。

○家庭や地域社会の人々のよさを生かす工夫する。

5. 教師の指導観の転換と学習活動における支援の工夫

○教師の学習指導の在り方についての考え方や子供たちの学習活動に対する考え方の転換を図る。

○教師は、愛情ある共感的な子供理解をもとに、子供一人一人のよさや可能性が高められ豊かになるように支援の在り方を工夫する。

○子供一人一人の学習活動を充実するために、教科等の特性などを考しつつ、学習形態や教師の協力的な指導

などを工夫する。

また、学習指導要領が目指す教育（新しき学力観に立つ）の実現の視点としては⁴⁾、

① 新しい教育課程全般にわたって、子供のよさや可能性を生かし新しい学力観に立つ教育を実現するようにする。

② 子供一人一人が新しい学力観に立った学力を自ら獲得し、身に付けることができるように各教科等間の関連を図った目標や内容を設定する。

③ 子供一人一人が、よさや可能性を発揮して、新しい学力を獲得することができるよう、弾力的な学習指導を構想し、展開する。

④ 子供一人一人のよさや可能性を生かし、新しい学力観に立つ学力を育てる観点に立ち、教材を吟味・選択したり、開発したりする。

⑤ 子供一人一人のよさや可能性を生かし、豊かな自己実現を支援する一体的な指導と評価を家現する。

⑥ 共感し学び合う学習活動を重視する。

教育課程における基本方針を新教育の実践にどのように生かしていくかということは、各教科共通の視点であり、各小学校は、前述の事項に留意し、問題点を明らかにしながら改善に取り組むことが必要とされる。生活科においては、特に活動や経験を通して学習する教科であり、従来の教師中心の授業展開から脱皮しなければならないことを念頭に、学習指導の課題は、次のような点への積極的対応が望まれている。

① 具体的な活動や体験は子供一人一人が自分の考えなどをつくる活動であるにとらえ、その質的な充実を図る。

② 環境構成の工夫と充実を図る。

③ 子供一人一人を見取り、それを指導に生かす。

④ 教科書を有効に活用する。

生活科の定着は、低学年教育だけでなく、小学校教育全体の在り方を変革することにつながるものであり、「社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる能力や生涯学習の基礎を培うことができる教育」を目指す問題提起でもある。

小学校生活科指導資料「指導計画の作成と学習指導」では体験学習の積極的対応として、次の3点を指摘し

ている。

- ① 体験を重視する教育
- ② 個性を重視する教育
- ③ 学校と家庭や地域との連携について

問題提起（対応）として必要なことは、授業の在り方との関わりが重要な意味をもち、教師の役割や子供の活動の在り方、学習の場の改善が求められている。そして、改革のポイントとして、以下の4点が取り上げられる。

- ① 授業への教師のかかわり方の見直し
- ② 個を生かす配慮
- ③ 体験的な活動の組み入れ
- ④ 学習の場や対象の見直し

Ⅲ. 学習内容に関する児童の意識

ここでは、児童が生活科の学習内容に対しての印象（受けとめ方）を調査し、その結果について検討した。

1. 方法

- ・対象 都内10校の第3学年（男130名、女147名）
 - ・期間 平成9年7月
 - ・内容
- ① 生活科の内容構成に基づいて以下の項目を設定した。
〔第1学年の内容から〕
- a. 学校の中でいろいろな場所を調べたり、学校の中で働いている方と話をしたりして、学校で楽しく生活できるようにしたこと。
 - b. 通学路の様子を調べて、安全な登下校ができるようにしたこと。
 - c. 家の人たちの仕事を調べて、自分でしなければならないことを話し合っただけで家の仕事を実際に行ってみたこと。
 - d. 近くの公園などで遊び、公園はだれのものなのかについて話し合ったこと。
 - e. 春や秋の草や花の様子を調べたり、人の生活の様子を調べたこと。
 - f. 土、砂などで遊んだり、草花や木の実などで遊びに使うものを作ったりして遊んだこと。
 - g. 動物（生き物）を飼ったこと
 - h. 草花を育てたこと
 - i. 入学してから自分でできるようになったことや毎日の生活で自分がしていることをまとめたこと。

〔第2学年の内容から〕

- a. 近くの店の様子を調べて、実際に買い物をしたこと
- b. 葉書を作ったり手紙を書いたりしたことや、郵便局を見学したり学校で郵便局の仕事をしたりしたこと。
- c. バスや電車に乗ったり、駅で働いている人々の様子を調べたりしたこと。
- d. お祭りやお正月の遊びをしたりお店やさんになったりしたこと。
- e. 木の葉やどんぐりで遊びに使うものを作ったり、みんなで遊んだこと。
- f. 野菜やおいもを育てたり食べるものを作ったりしたこと。
- g. 動物（生き物）を育てたこと。
- h. 生まれてからの自分の生活や、自分の育った様子とまわりの人々との関わりを調べてまとめたこと。

- ② 印象度の評定については、以下の7段階に分類した。
- ア. 大変楽しい学習だった。
 - イ. やや楽しい学習だった。
 - ウ. 普通の学習だった。
 - エ. あまり楽しくない学習だった。
 - オ. 全く楽しくない学習だった。
 - カ. 学習したことを忘れた。
 - キ. この学習はしていない。

2. 結果

表1は、生活科の学習内容の印象度を項目別、男女別に人数とその割合を示したものである。

図1は、全体の印象度の割合、図2～18は、項目ごとにグラフ化したものである。

まず図1を見ると、ア.「大変楽しかった」(43%)、イ.「やや楽しかった」(17%)、ウ.「普通だった」(16%)、エ.「あまり楽しくなかった」(4%)、オ.「全く楽しくなかった」(2%)となり、半数以上(60.0%)が生活科の学習内容を楽しいものとして受けとめていることがわかる。

学習内容の項目別にみると、楽しかった印象の最も多かった内容は、図14の2-d「お祭りやお正月の遊びをしたり、お店やさんになったりした」で、ア.「大変楽しかった」(68%)、イ.「やや楽しかった」(9%)、となっている。次に、図8の1-g「動物を飼ったりした」で、ア. (58%)、イ. (12%)、図7の1-f「土や砂で遊

表1 学習内容の印象

学習内容	大変楽しかった			やや楽しかった			普通だった			あまり楽しくなかった			全く楽しくなかった			学習したことを忘れた			学習していない			
	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	
第一学年	a 学校の中のいろいろな場所を調べたり、人と話したりして学校で楽しく生活できるようにした	56	64	120	29	29	58	39	22	61	4	1	5	0	1	1	7	7	14	7	5	12
		39.4%	49.6%	44.3%	20.4%	22.5%	21.4%	27.5%	17.1%	22.5%	2.8%	0.8%	1.8%	0.0%	0.8%	0.4%	4.9%	5.4%	5.2%	4.9%	3.9%	4.4%
	b 通学路の様子を調べて、安全な登下校ができるようにした	24	24	48	33	32	65	40	36	76	9	7	16	3	2	5	20	15	35	14	13	27
		16.8%	18.6%	17.6%	23.1%	24.8%	23.9%	28.0%	27.9%	27.9%	6.3%	5.4%	5.9%	2.1%	1.6%	1.8%	14.0%	11.6%	12.9%	9.8%	10.1%	9.9%
	c 家の人たちの仕事を調べて、自分でしなければならないことを話し合っ、家での仕事を実際にしてみた	43	39	82	19	31	50	35	30	65	8	5	13	9	1	10	11	7	18	17	16	33
		30.3%	30.2%	30.3%	13.4%	24.0%	18.5%	24.6%	23.3%	24.0%	5.6%	3.9%	4.8%	6.3%	0.8%	3.7%	7.7%	5.4%	6.6%	12.0%	12.4%	12.2%
	d 近くの公園などで遊び、公園は誰のものかを話し合った	34	32	66	15	16	31	36	23	59	7	11	18	3	1	4	12	17	29	32	27	59
		24.5%	25.2%	24.8%	10.8%	12.6%	11.7%	25.9%	18.1%	22.2%	5.0%	8.7%	6.8%	2.2%	0.8%	1.5%	8.6%	13.4%	10.9%	23.0%	21.3%	22.2%
	e 春や秋の草や花の様子を調べたり、人の生活の様子を調べた	62	48	110	29	25	54	27	15	42	4	5	9	2	1	3	7	4	11	8	9	17
		44.6%	44.9%	44.7%	20.9%	23.4%	22.0%	19.4%	14.0%	17.1%	2.9%	4.7%	3.7%	1.4%	0.9%	1.2%	5.0%	3.7%	4.5%	5.8%	8.4%	6.9%
f 土、砂などで遊んだり、草花や木の実などで遊びに使うものを作ったりして遊んだ	74	80	154	23	17	40	16	15	31	5	2	7	3	1	4	6	1	7	12	10	22	
	53.2%	63.5%	58.1%	16.5%	13.5%	15.1%	11.5%	11.9%	11.7%	3.6%	1.6%	2.6%	2.2%	0.8%	1.5%	4.3%	0.8%	2.6%	8.6%	7.9%	8.3%	
g 動物(生き物)を飼ったりした	80	72	152	15	18	33	12	18	30	2	2	4	3	1	4	7	6	13	21	10	31	
	57.1%	56.7%	56.9%	10.7%	14.2%	12.4%	8.6%	14.2%	11.2%	1.4%	1.6%	1.5%	2.1%	0.8%	1.5%	5.0%	4.7%	4.9%	15.0%	7.9%	11.6%	
h 草花を育てたりした	61	62	123	31	36	67	29	23	52	4	2	6	2	0	2	2	1	3	7	3	10	
	44.9%	48.8%	46.8%	22.8%	28.3%	25.5%	21.3%	18.1%	19.8%	2.9%	1.6%	2.3%	1.5%	0.0%	0.8%	1.5%	0.8%	1.1%	5.1%	2.4%	3.8%	
i 入学してから自分でできるようになった事や毎日の生活で自分がしていることをまとめた	30	37	67	33	24	57	35	37	72	12	8	20	7	3	10	20	9	29	7	11	18	
	20.8%	28.7%	24.5%	22.9%	18.6%	20.9%	24.3%	28.7%	26.4%	8.3%	6.2%	7.3%	4.9%	2.3%	3.7%	13.9%	7.0%	10.6%	4.9%	8.5%	6.6%	
第二学年	a 近くのお店の様子を調べて、実際に買い物をした	55	57	112	26	20	46	10	11	21	3	0	3	1	1	2	8	1	9	38	40	78
		39.0%	43.8%	41.3%	18.4%	15.4%	17.0%	7.1%	8.5%	7.7%	2.1%	0.0%	1.1%	0.7%	0.8%	0.7%	5.7%	0.8%	3.3%	27.0%	30.8%	28.8%
	b 葉書を作ったり手紙を書いたりしたこと、郵便局を見学したり学校で郵便の仕事をした	79	72	151	18	14	32	15	14	29	2	1	3	3	1	4	8	4	12	17	16	33
		55.6%	59.0%	57.2%	12.7%	11.5%	12.1%	10.6%	11.5%	11.0%	1.4%	0.8%	1.1%	2.1%	0.8%	1.5%	5.6%	3.3%	4.5%	12.0%	13.1%	12.5%
	c バスや電車に乗ったり、駅で働いている人々の様子を調べた	48	44	92	29	26	55	16	22	38	9	3	12	5	4	9	4	9	13	32	20	52
		33.6%	34.4%	33.9%	20.3%	20.3%	20.3%	11.2%	17.2%	14.0%	6.3%	2.3%	4.4%	3.5%	3.1%	3.3%	2.8%	7.0%	4.8%	22.4%	15.6%	19.2%
	d お祭りやお正月の遊びをしたり、お店やさんになつたりした	92	93	185	13	10	23	9	7	16	4	3	7	1	1	2	4	4	8	15	11	26
		66.7%	72.1%	69.3%	9.4%	7.8%	8.6%	6.5%	5.4%	6.0%	2.9%	2.3%	2.6%	0.7%	0.8%	0.7%	2.9%	3.1%	3.0%	10.9%	8.5%	9.7%
	e 木の葉やどんぐりで遊びに使うものを作ったり、みんなで遊んだ	63	70	133	26	22	48	14	9	23	8	9	17	1	0	1	7	11	18	21	11	32
		45.0%	53.0%	48.9%	18.6%	16.7%	17.6%	10.0%	6.8%	8.5%	5.7%	6.8%	6.3%	0.7%	0.0%	0.4%	5.0%	8.3%	6.6%	15.0%	8.3%	11.8%
f 野菜やおいもを育てたり食べるものを作ったりした	74	82	156	21	25	46	21	14	35	6	1	7	1	0	1	6	4	10	13	4	17	
	52.1%	63.1%	57.4%	14.8%	19.2%	16.9%	14.8%	10.8%	12.9%	4.2%	0.8%	2.6%	0.7%	0.0%	0.4%	4.2%	3.1%	3.7%	9.2%	3.1%	6.3%	
g 動物(生き物)を育てたりした	68	70	138	20	16	36	9	16	25	4	4	8	3	1	4	6	10	16	27	15	42	
	49.6%	53.0%	51.3%	14.6%	12.1%	13.4%	6.6%	12.1%	9.3%	2.9%	3.0%	3.0%	2.2%	0.8%	1.5%	4.4%	7.6%	5.9%	19.7%	11.4%	15.6%	
h 生まれてからの自分の生活や自分の育つた様子とまわりの人々との関わりを調べてまとめた	46	55	101	18	32	50	30	27	57	10	0	10	8	3	11	13	6	19	17	7	24	
	32.4%	42.3%	37.1%	12.7%	24.6%	18.4%	21.1%	20.8%	21.0%	7.0%	0.0%	3.7%	5.6%	2.3%	4.0%	9.2%	4.6%	7.0%	12.0%	5.4%	8.8%	

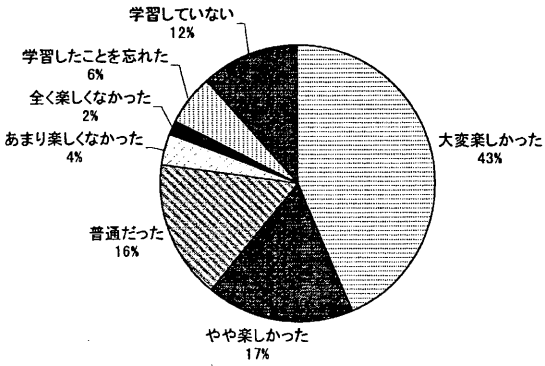


図1 生活科全体の印象

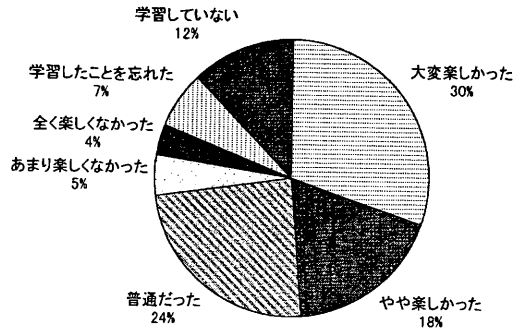


図4 1-cの印象

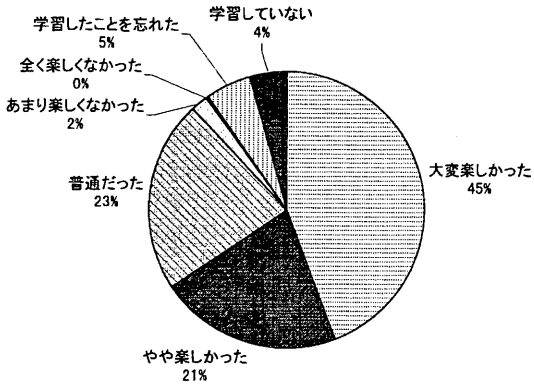


図2 1-aの印象

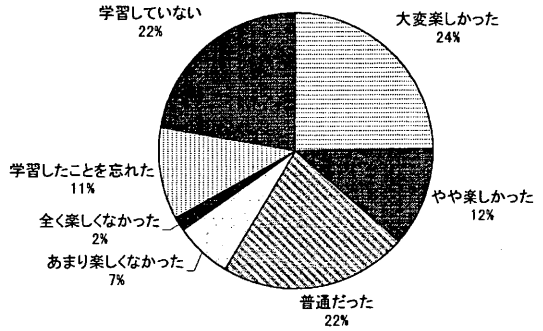


図5 1-dの印象

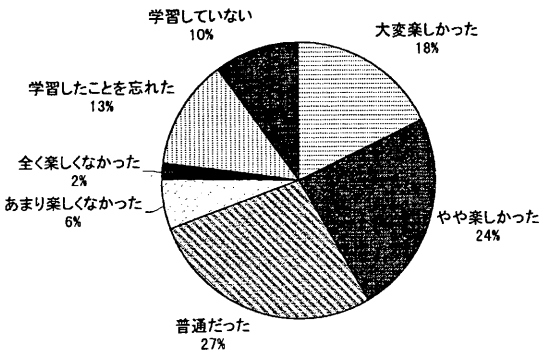


図3 1-bの印象

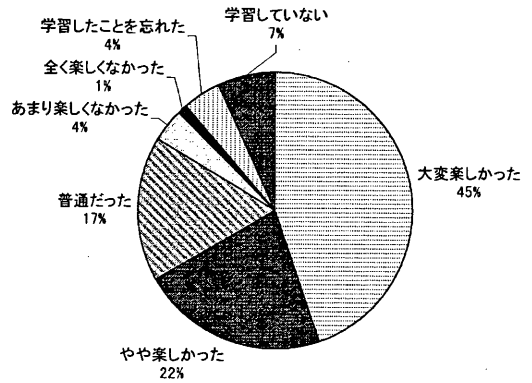


図6 1-eの印象

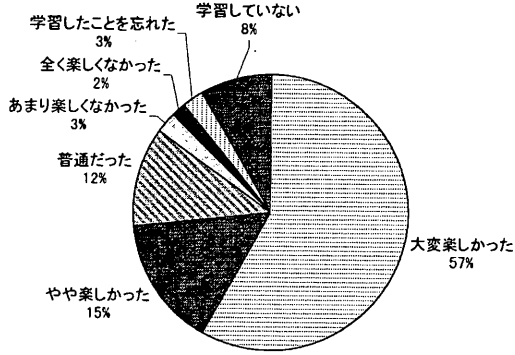


図7 1-fの印象

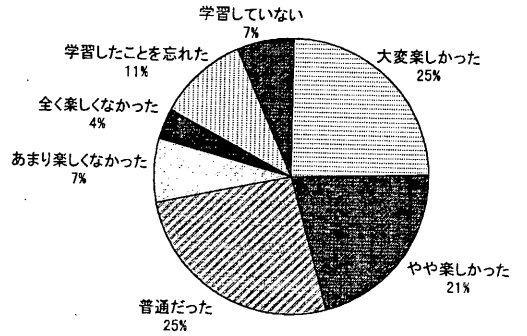


図10 1-iの印象

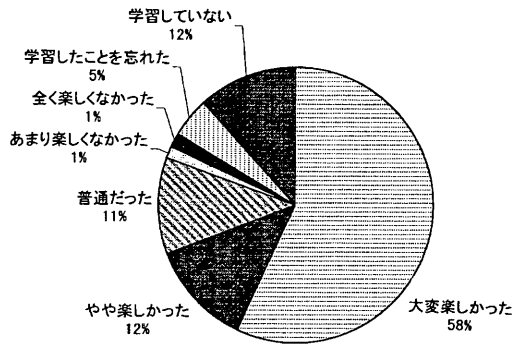


図8 1-gの印象

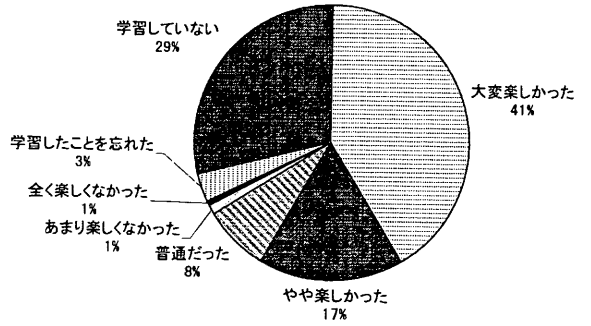


図11 2-aの印象

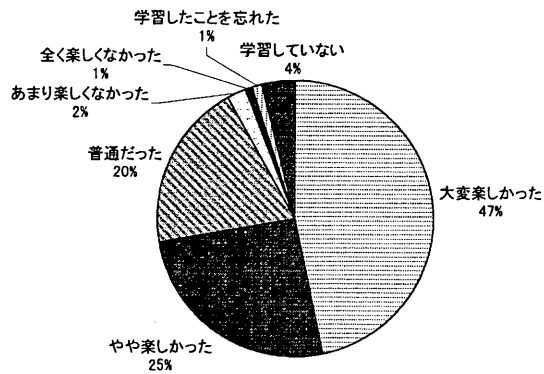


図9 1-hの印象

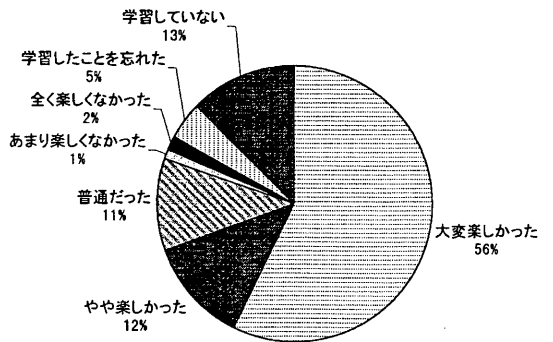


図12 2-bの印象

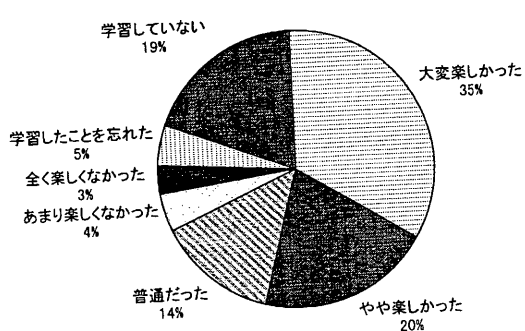


図13 2-cの印象

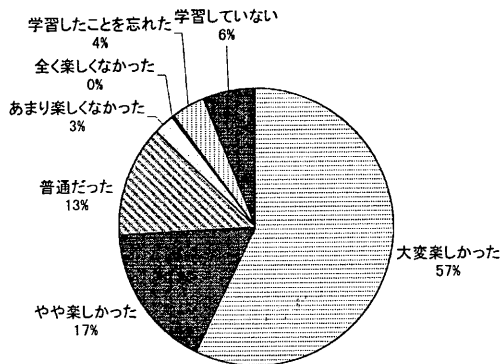


図16 2-fの印象

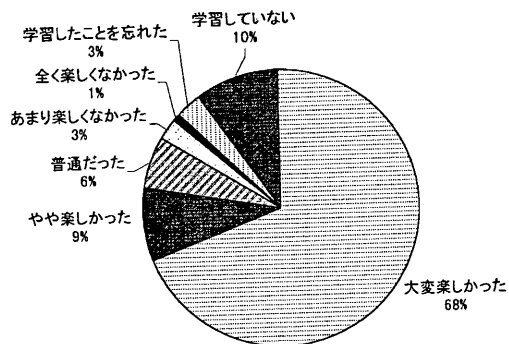


図14 2-dの印象

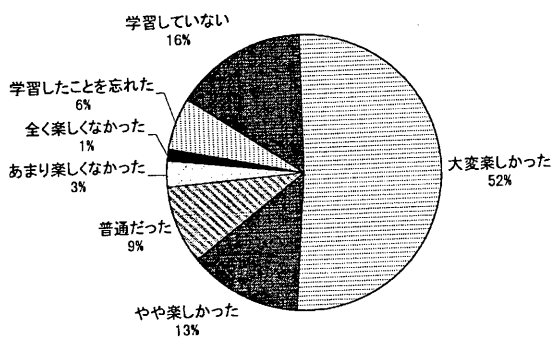


図17 2-gの印象

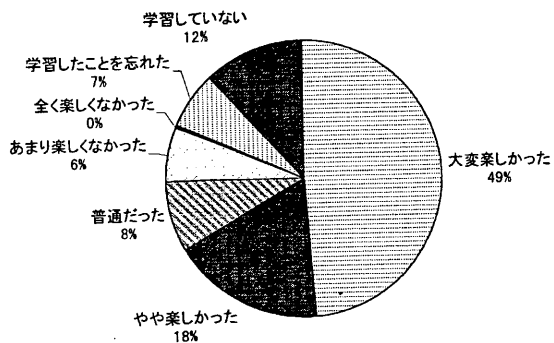


図15 2-eの印象

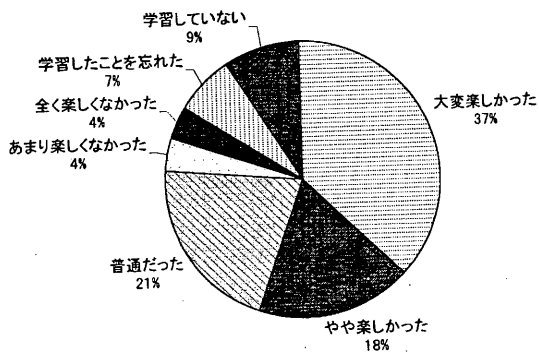


図18 2-hの印象

んだり草花、木の実などで遊びに使うものを作ったりして遊んだ」で、ア。(57%), イ。(15%), 図16の2-f「野菜やおいもを育てたり食べるものを作ったりした」で、ア。(57%), イ。(17%), 図12の2-b「葉書を作ったり手紙を書いたりしたこと、郵便局を見学したり学校で郵便局の仕事をした」で、ア。(56%), イ。(12%)となっている。

一方、低かったのが図3の1-b「通学路の様子を調べて、安全な登下校ができるようにした」で、ア。(18%), イ。(24%), 図5の1-d「近くの公園などで遊び、公園は誰のものかを話し合った」で、ア。(24%), イ。(12%), 図10の1-i「入学してから自分でできるようになった事や毎日の生活で自分がしていることをまとめた」で、ア。(25%), イ。(21%)となっている。特に図10では、エ。「あまり楽しくなかった」(7%), オ。「全く楽しくなかった」(4%)がやや高いのが特徴である。

ここでは、「育てる」「遊ぶ」「作る」といったことが「見る」「調べる」「まとめる」ことに比べ、楽しい印象が強いことがわかる。男女別にみると、若干ではあるが、女子の方が生活科を楽しいものとしてとらえている様子が見られる。

生活科において、授業内容を精選する場合、子供たちにどれだけ興味・関心を抱かせるか、どれだけ持続し、発展していくかを吟味していく必要性を改めて感ずる。

また、「学習していない」項目が比較的多くみられたのは、図11の2-a「近くのお店の様子を調べて、実際に買い物をした」(29%), 図13の2-c「バスや電車に乗ったり、駅で働いている人々の様子を調べた」(19%), 1-d(22%)などである。同項目での「学習したことを忘れた」ことが多いのと合わせ考えると、学校外での授業が印象に薄いということに気づく。ちなみに、小学校別にみるとその差が大きく、地域内での商店等の協力が得られなかった事や危険が伴うとの理由で実施できなかったという声も聞かれた。問題を残す結果ともいえよう。

IV. まとめ

これからの学校教育においては、子供の個性や創造性を重視し、社会に対して主体的に生きる資質や能力の育成をめざす教育へ転換を図ることが必要とされている。

特に、生活科は、従来の授業の在り方を根本的に改革するものであり、教師の役割や子供の活動の在り方、学習の場などの改善が求められている。その具体的な考え

方や授業展開の視点等を本稿では述べてきた。そして、これらの事項は、小学校教育全体の在り方から考えていくべき重要な課題となることを再考した。

学習内容の意識調査結果からは、生活科が児童にとって楽しいイメージが予想以上に強いことがわかった。これは、児童が生き生き活動していることを反映するものであり、授業本来の求める姿であるといえる。しかしながら、他方では地域との連携不足や環境等の問題は早急に解決されねばならないだろう。

近年、授業の画一化や特色ある授業が少なくなっているとの指摘も多々聞かれる。変化の激しい社会の中で地域や世代間も子供たちも日々変化していく。教師が指導書の内容全てに積極的に対応していくことは難しいが、児童がより一層生活科が楽しいものとして受けとめ、生活科で学習できたことを、生涯にわたって生かすことができるような授業の進行為望まれる。そして、そのためには、指導計画や指導案を着実にを行い、実践(授業)を大切にしていくことが不可欠である。

今後は、生活科の教育効果を高めていくための教育方法や評価についても取り上げ検討していきたい。

謝 辞

本稿を進めていくにあたって、ご協力いただきました各小学校の先生方に感謝申し上げます。

註

- 1) 文部省「小学校 学習指導要領」
- 2) 福田啓子「小学校生活科の意義と課題 - 幼稚園教育との関係 -」東京家政大学研究紀要第36集 p.105~p.112 1196
- 3) 文部省「小学校 教育課程一般 指導資料」東洋館出版社 1993
- 4) 文部省「小学校生活指導資料・新しい学力観に立つ生活科の学習指導の創造」東洋館出版社 1993
- 5) 文部省「小学校指導書 生活編」教育出版 1988
- 6) 文部省「小学校生活指導資料・指導計画の作成と学習指導」東洋館出版社 1990